

## 論文内容要旨

### 論文題名

Whole Blood Platelet Aggregation Test and Prediction of Hemostatic Difficulty After Tooth Extraction in Patients Receiving Antiplatelet Therapy

抗血小板療法患者に全血使用の血小板凝集テストを行い、抜歯後止血困難が予測できるか検討した。

### 掲載雑誌名

Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis 掲載予定

専攻分野 地域連携歯科学講座 氏名 永尾 康

### 内容要旨

抗血小板療法患者（APT）の抜歯を行うとき、ほとんどの場合は止血に問題ないため、抜歯に先だつての抗血小板薬の中断は基本的に行いません。しかし、まれに抜歯後出血を起こす場合があります。抗血小板療法患者に抗血小板薬が作用して、日々どれくらい凝固能を抑制しているかは、日常的に観察されていないので、日々の投与量が時折過剰摂取につながっていることがあります。止血機能は抗血小板療法の薬剤投与量が過剰投与となることにより、損なわれる可能性があります。冠動脈ステント留置術が人気となり、抗血小板療法を受ける患者は日々増加しているので、今までよりも多く止血困難なケースに遭遇する可能性があります。

我々は、外来抜歯予定患者の安全管理として、当日凝固能評価テスト（Point of care testing : POCT）に着目した。POCT としての血小板凝集試験は multiplate®で行う全血使用のインピーダンス法で、抗血小板療法のモニタリングを行いました。

研究に同意を得られた抜歯予定の APT 療法患者 65 名と抜歯予定の APT 療法を行っていないコントロール患者 15 名で検討されました。

患者背景に有意な差はありませんでした。APT 療法患者の中で Aspirin が 46 例で最も多く、次いで Clopidogrel が 15 例、2 剤併用療法患者 (DAPT) が 14 例でした。multiplate®で ASPI、ADP、TRAP test を行い検討しました。

止血延長群は 6 例ありました。止血困難症例について、ASPI 値 11.5

で cut off 値を設定しました。特異度は 86.4%と高かったが、鋭敏度は 50% でありました。

APT 患者の血小板機能が全血凝固テストに敏感であると確認しました。ASPI テストは止血困難の予測因子となり得ると考えます。